

学術情報リテラシー教育の理論と動向

平成18年度

学術情報リテラシー教育担当者研修

2006(平成18)年10月11日(水)/11月8日(水)

野末 俊比古

(青山学院大学 / 国立情報学研究所)



1. はじめに

- 研修の目的・構成
- 講義の目的
- 講義の構成



2. メディアの多様化・高度化 と情報の利用(者)



メディアをめぐる変化 (インターネットの意味するもの)

- 情報通信技術の高度化(デジタル化・ネットワーク化)
- 情報源(ソース)と情報流通経路(チャンネル)の多様化



「情報」利用者の変化と図書館

- 情報探索・利用行動(方法)の多様化・高度化
- 図書館の位置づけの変化
- 図書館の(新たな)役割・対応



3. 情報リテラシー(教育) の研究・実践・政策の動向



情報リテラシー(概念)の変遷

- 70年代: ビジネス能力
- 80年代: 日常生活全般
- 90年代: 「教育」に焦点
- 00年代: デジタルデバイドの解消



情報リテラシーの今日的な理解

- 情報を主体的に使いこなす能力
- 中身は分野・文脈に依存
- 「図書館リテラシー」も(重要な)要素

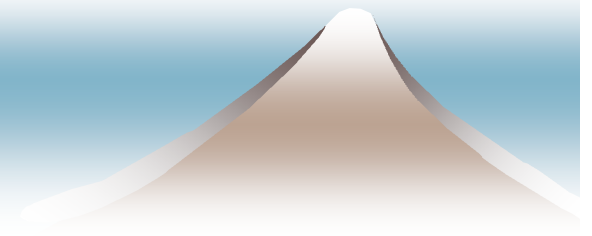


最近の研究動向(例)

- レビュー研究(国内)の登場
- 大規模な実態調査の実施・公開
- 実践に基づく報告・考察
- 理論的・歴史的な分析・検討

実践の動向 他講

政策の動向 後述

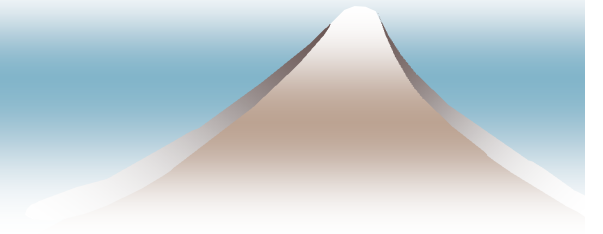


4 . 高校までの「情報教育」の現状 (教科「情報」を中心に)

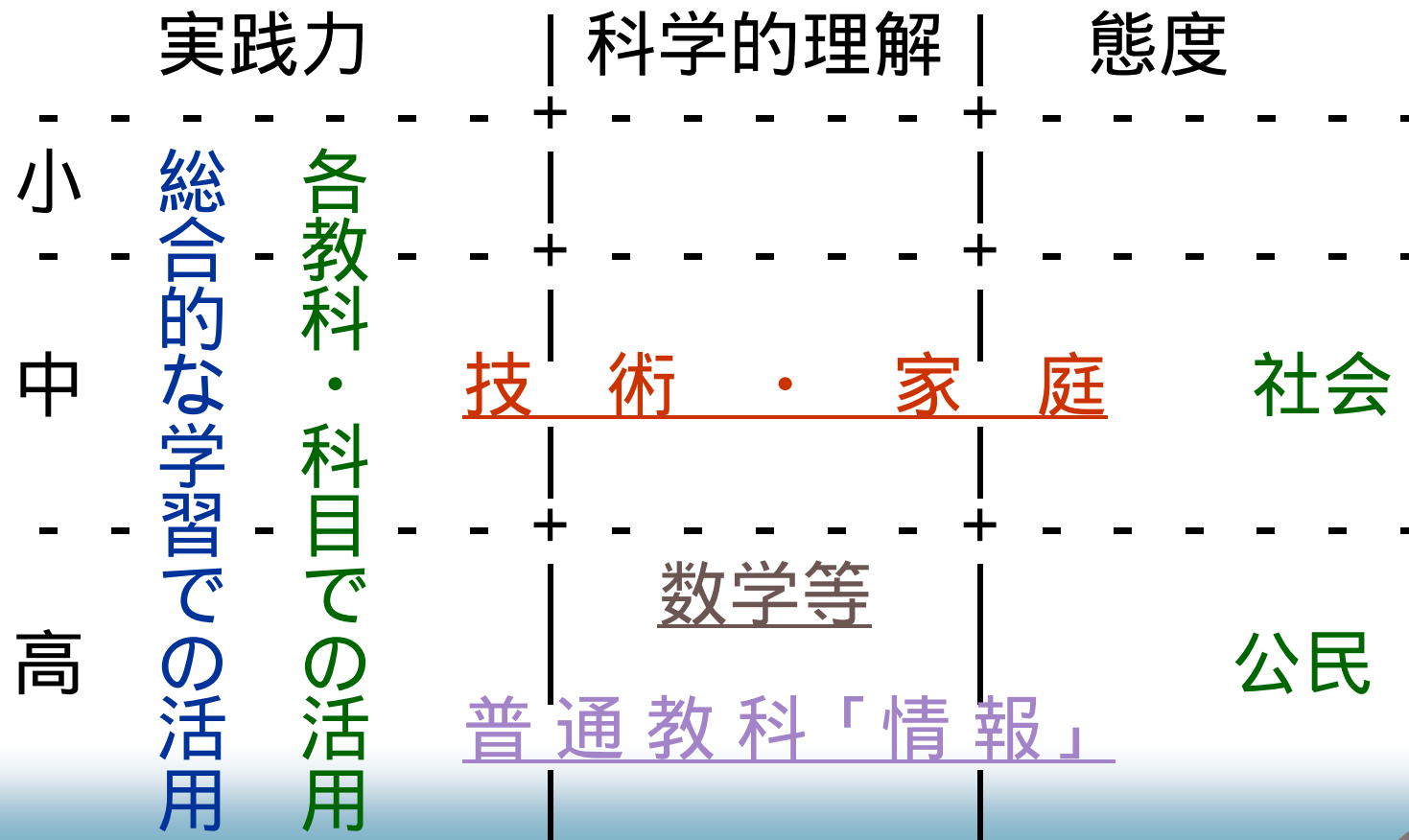


情報教育と情報活用能力

- 現行学習指導要領における情報教育
(情報活用能力の育成)の重視
- 情報活用能力の定義(焦点)
 - 情報活用の実践力
 - 情報の科学的な理解
 - 情報社会に参画する態度

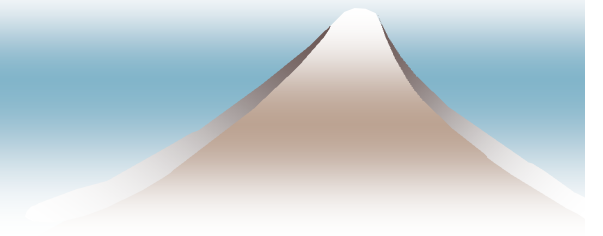


「情報教育」の体系化のイメージ



高校普通教科「情報」の概要

- 目標：情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成
- 構成：「情報A」「情報B」「情報C」から1科目以上が必修
- 特徴：「問題解決」が基礎、文理融合型、実習(技能)重視、...

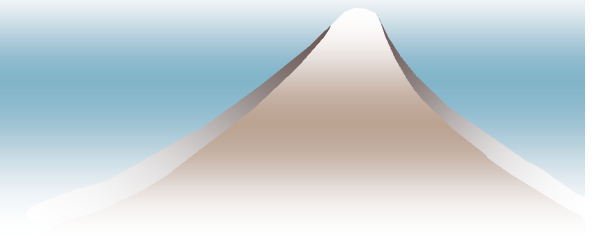


5. 大学図書館における 学術情報リテラシー教育の展開



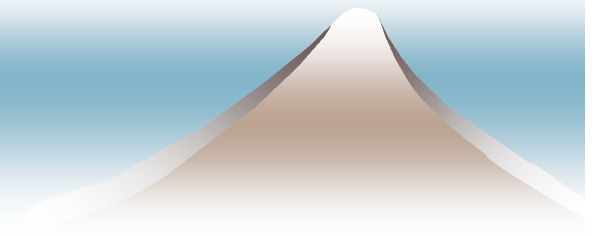
大学図書館における利用者教育

- 「図書館」「資料」「情報」
- 「探索・収集」+「整理・分析」「表現・発信」
- 教員(授業)との「連携」



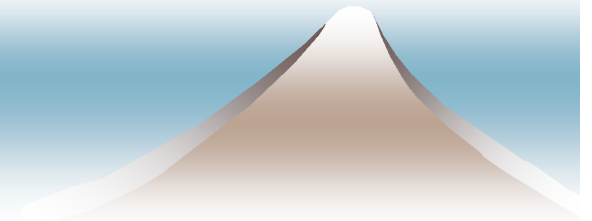
「指導サービス」の意義

- 図書館の「内部」から「外部」の文脈へ
(系統的な情報リテラシー教育)
 - 「利用者」の視点を重視
 - 図書館経営・政策上の「戦略」
- これまでのサービスの体系化・再構築



指導サービスの「方法」

- 直接的方法 / 間接的方法 (ツール)
- 授業との関連
 - 関連なし (図書館独自)
 - 学科関連指導
 - 学科統合指導
 - 独立学科目



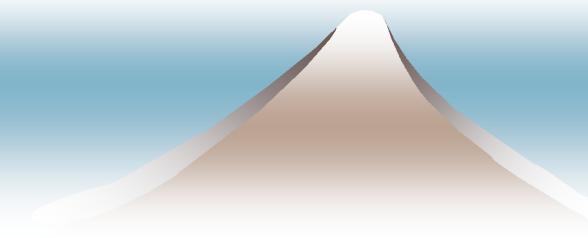
「指導サービス」の指針など

- 米国：ACRLの指針・基準など
- 日本：JLAの指針など
- 「たたき台」や「拠りどころ」として



「指導サービス」をめぐる課題(例)

- 体系化・標準化・共有化
 - さまざまな利用者(ニーズ)への対応
 - 環境の整備・確保
 - 学内での位置づけ(教員・授業)
 - 職員の「指導」技能(養成・研修)
- ➔ プログラムのマネジメント



6. おわりに

- 大学コミュニティにおける位置づけ(ライブラリアイデンティティ)
- 図書館員の役割(専門性)



ありがとうございました

ご意見やご質問はいつでもどうぞ
(後日の場合はメールやファクスで)

